

ウナギの祖先は深海魚だった！

ウナギの祖先は、深海魚の一種であるシギウナギやノコバウナギとする研究成果を先ごろ、東京大学海洋研究所と千葉県立中央博物館のグループが、英国王立協会が発行するバイオロジージャーナル「電子版」に発表しました。

このシギウナギの標本が戸田造船郷土資料博物館に併設する駿河湾深海生物館に展示されています。



駿河湾深海生物博物館に展示されている“シギウナギ”

戸田の
駿河湾深海生物館は
すごい！

シギウナギはウナギ目シギウナギ科で世界の熱帯、温帯域の水深300〜2000mに生息する深海魚。展示されているシギウナギは体長1m弱で太さは大人の人差し指くらい。

特徴のある顎はシギの嘴に似た顎で桜海老などのアミ類のひげを絡めとるために発達したことがわかっていきます。

一方、ウナギは川や湖などの淡水で成長し、そこから数千キロメートルも離れた外洋で産卵する事が知られていますが、なぜこのような大規模な回遊をするのか長い間なぞでした。

このグループの発表によるとウナギは形の似ているアナゴ、ハモなどのウナギ属とは縁遠く外洋、中深層にすむシギウナギやノコバウナギなどと近縁ということがわかりました。

「展示されているシギウナギは戸田の漁師さんが底引き網で捕獲したか、戸田の船で深海魚の調査をしたときに捕獲したもののいづれかと思われる。みなさんに見に来て欲しい」と駿河湾生物館の筒井久美子主任学芸員は話しています。

ナターリアさん
またも
戸田の絵画を寄贈



あまりいい香りが最高！
1/31 井田菜の花まつり

昨年の高潮で塩害が心配されていた菜の花畑が、地元の方々の努力でよみがえりました。今年も、新たに植え替えたため例年よりは遅い花つきでした。31日の「菜の花まつり」に合わせてしっかりと満開になりました。

菜の花まつりでは、甘い香りの菜の花畑にいます。菜の花のてんぷらや味噌汁のサーピスもあります。

ロシアの画家ナターリア・マクシモワさんは、ロシア美術連盟会員でサンクトペテルブルグで製作活動をしています。既に十数回来日していますが、その度に戸田の景色を描いています。

サンクトペテルブルグで「日本の春」を描いた展覧会を行ったり静岡や戸田でも展示会を行うなど日露交流に尽力してきました。その功績が称えられ、2007年には当時の麻生外務大臣から表彰され、ビザなしで来日できる数少ないロシア人の一人です。

昨年11月にも来日し、沼津市に戸田を描いた絵画を寄贈しました。この絵は2004年秋に日露交流百五十周年の慶事で来日した際に宿泊した「戸田荘」から見た御浜岬の景色が気に入って描いた作品「戸田のパノラマ」で、現在は、戸田造船郷土資料博物館に展示されています。



井田の菜の花畑は、2月中が見ごろです。花の香りに誘われて出かけてみませんか？